

<h1>第 336 回 月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長 西山	企画運営委員 保科

- ◎ 日 時 2021年9月17日（金）13時00分～16時45分
- ◎ 場 所 リモート開催（Zoom）
- ◎ 出席者 20名（個人会員6名、企業・団体会員12 法人14名）

1. 企画運営委員長 挨拶 13:00～13:05

主な内容：今回より ZOOM ブレックアウトルームを活用し、グループ討議を始める。
また、今回の自己紹介とトピックスは、グループ討議中とする。

2. オンラインによるグループミーティング活動について 13:05～13:30

主な内容：労働安全・機械安全についての困りごとや深く追求したいことを、会員同士が自由に討議できる場として、Zoom のオンラインミーティングを利用する。会員からの申請に対し、企画運営委員会が承認し、討議の場が設けられる。討議の進め方は自由であるが、適宜、経過や結果を月例会で報告する。現在、「仕組みを用いた安全確認型による既存設備の安全化」と「MBSE の効果検証と普及化」の2テーマが登録されている。ミーティングに参加したい方や新たにテーマを設けたい方は、企画運営委員会へ連絡する。（連絡先：メールアドレス：kkikaku@sostap.org）

3. 講演 1 「Industry4.0/Society5.0/Safety2.0 でのリスクアセスメント教育」

13:25～14:25 長岡技術科学大学 木村哲也

Industry4.0/Society5.0/Safety2.0 等のキーワードで、社会の多様性の拡大が示されており、リスクアセスメントもその流れを考慮する必要がある。本講演では、長岡技術科学大学システム安全専攻で10年以上に渡り社会人学生に対して実施されてきたリスクアセスメント教育を基に、これからの多様性を考慮したリスクアセスメント教育の課題を紹介する。また、事前の質問ごとに状況の詳細を説明する。

意見交換

リスク評価における発生頻度の決め方や、妥当性確認のやり方の質疑が行われた。

4. 講演 1 「会員企業のリスクアセスメント紹介」～ 危険源同定を中心に

14:35～15:35 株式会社アイシン 奥野健司

百年に一度の変革期を迎えている自動車産業において、グループ企業が合併した新生株式会社アイシンでは、安全マネジメントの統合が進められている。今回は、いろいろな安全活動を統括し、新しい安全マネジメントの運用を担当する立場から、危険源同定を中心にした当社のリスクアセスメントの実施状況を紹介します。

意見交換

合併にともなう安全基準の再構成、人員の教育訓練、リスクアセスメントシートの帳票書式、海外向け機械の運用方法、死亡災害の対応などの質疑が行われた。

5. 危険源同定についてのグループ討議

15:40～16:30 企画運営委員会

3～5名の人数で4グループを設け、ZOOMのブレイクアウトルームに分かれ、危険源同定の自社のやり方、或いは過去に経験したやり方等を紹介しながら、今回は「危険源が洩れる可能性はないのか。もしあるとすればどんなところに問題があるのか」について討議を行った。討議した結果をレポートにまとめ、グループごとに発表した。今回は発表に対する意見交換や講評の時間を割けなかったため、次回337回月例会であらためて結果を確認し、意見交換や講評を行う。

意見交換

- ・危険源はいろいろなものがあり、全てを把握することは難しい。
- ・いろいろな場面で気づいたことを経験していくことが必要である。
- ・事故・災害の事例を共有化しても、再発を防げないことがある。

6. その他

- ・会員からの意見や助言を活用するため、アンケートへの協力をお願いする。
- ・次回337回月例会で、今回のグループ討議の結果に対する意見交換などを行う。

月例会説明資料：会員専用ページに掲載

資料番号	資料名
336-2-1	オンラインによるグループミーティング活動について①
336-3-1	210917 安応研木村改
336-5-1	20210917 グループ討議レポート

以上